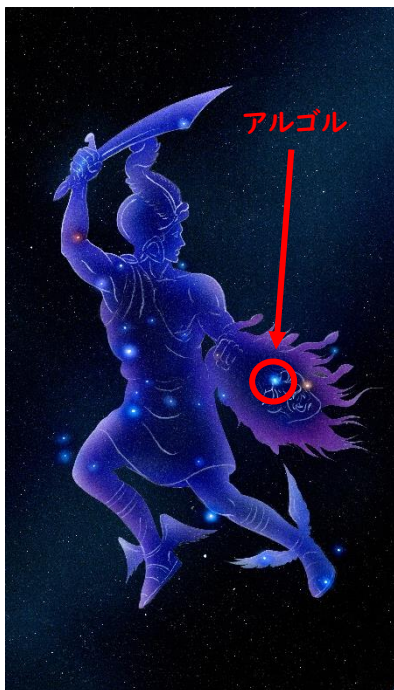




シリーズ「秋の夜空の変光星」：その3

悪魔の星!?「アルゴル」

ペルセウス座という名前は、8月のお盆休みの時期に見ることができる「ペルセウス座流星群」として最も知られているのではないのでしょうか。ペルセウス座は秋の季節の星座で、ギリシャ神話に登場する勇者ペルセウスの姿です。



【ペルセウス座】 イラスト：高部哲也

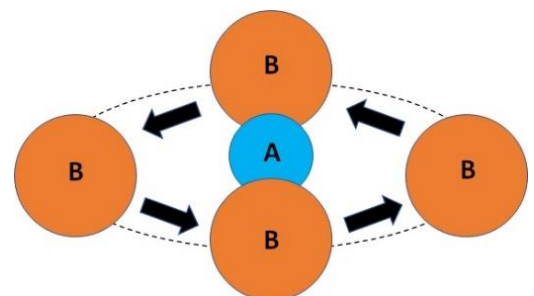
左の図でペルセウスが左手に持っているものは、ペルセウスが退治した怪物メドゥーサの頭で、ここにはアルゴルという変光星があります。

前回紹介したくじら座のミラは、星が膨らんだり縮んだりして明るさが変わる「脈動変光星」と紹介しましたが、アルゴルは星自体の明るさが変わるわけではないのです。実は1つの星に見えるアルゴルにはAとBの2つの星があり、これが地球から見て互いに隠し合うため明るさが変化します。AとBが横に並んでいるときは2つの星の光が地球に届きますが、どちらか一方がもう一方の星を部分的に隠すと、地球に届く光が減り暗くなるのです。このような変光

星を「食変光星」と呼んでいます。

また、明るさが変わる周期もミラとは大きく違って、ミラは約332日と紹介しましたが、アルゴルは約3日という短い周期で2等から3等の明るさの変化をしています。アルゴルはアラビア語で「悪魔」を意味する言葉で

す。明るさが急に変わるこの星は昔の人にとってピッタリな名前だったのかもしれませんが、しかし、現在ではこのような食変光星はたくさん見つかっているのです。



アルゴルの変光イメージ

2021年12月13日記 (解説員：伊藤 貴大)